



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年1月31日

上場会社名 サノヤスホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 7022 URL <http://www.sanoyas.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 北達 伊佐雄
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 福井 直也 (TEL) 06-4803-6171
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	13,305	0.9	△536	—	△240	—	△259	—
2022年3月期第3四半期	13,191	△60.5	△197	—	△165	—	92	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 △191百万円(—%) 2022年3月期第3四半期 325百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	△7.79	—
2022年3月期第3四半期	2.81	2.76

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	27,653	7,554	27.0
2022年3月期	25,428	7,871	30.6

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 7,477百万円 2022年3月期 7,784百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,000	9.7	500	124.2	500	143.8	300	△31.0	9.09

(注1) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 社(社名) 、除外 社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	33,460,586株	2022年3月期	33,137,420株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	47,215株	2022年3月期	47,214株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	33,294,125株	2022年3月期3Q	32,982,271株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

	前第3四半期	当第3四半期	増減額	(単位：百万円) 増減率 (%)
売上高	13,191	13,305	113	0.9
営業利益	△197	△536	△338	—
経常利益	△165	△240	△74	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	92	△259	△351	—

レジャーセグメントは、遊園地事業の利用客が戻り好転しましたが、製造業向けセグメントは、化粧品乳化装置・攪拌機等において顧客の大口設備投資案件が少なかったこと、建設業向けセグメントは、電子部品・部材の長納期化が継続していることが業績に大きな影響を与えています。その結果、連結の売上高は前年同期比微増となりましたが、営業利益以下は減益となりました。

(前第3四半期の親会社株主に帰属する四半期純利益が経常損失に比べて好転している事由)

- ・過去の組織再編に伴って計上した繰延税金負債の取崩し

	前第3四半期	当第3四半期	増減額	(単位：百万円) 増減率 (%)
受注高	13,192	13,061	△130	△1.0
受注残高	10,336	12,695	2,359	22.8

製造業向けセグメント及びレジャーセグメントは、前第3四半期のような大口受注がなかった一方で、建設業向けセグメントは受注が大きく積み上がりました。その結果、受注高は前年同期比微減に留まり、受注残高は大きく伸長しました。

セグメント区分

	製造業向けセグメント	建設業向けセグメント	レジャーセグメント
サノヤス・エンジニアリング(株) 機械式駐車装置の製造及び保守点検 ショットブラストマシンの製造及び保守点検 建設工事用エレベーターの製造及びレンタル	○	○ ○	
サノヤス精密工業(株) 各種産業機械部品の製造及び組立 農機及び特装自動車用部品の製造及び組立	○ ○		
みづほ工業(株)、美之賀機械(無錫)有限公司 化粧品及び医薬品製造用の乳化装置及び攪拌機の製造 純水装置及び排水処理装置の製造 各種タンクの設計及び施工	○ ○ ○		
サノヤス・エンテック(株) 空調衛生給排水設備の設計及び施工 環境衛生装置の製造及び保守点検 医療廃棄物処理装置の製造	○ ○	○	
ハピネスデンキ(株) 電気機械器具製造及び電気工事		○	
松栄電機(株)、松栄電気システムコントロール(株) 電気機械器具製造		○	
サノヤス・ライド(株)、サノヤス・ライドサービス(株) 遊園地遊戯機械設備の製造 遊園地運営及び遊園地施設の運営管理の受託			○ ○

第1四半期より、「産業向け」を「製造業向け」に名称変更しました。

松栄電機(株)及び松栄電気システムコントロール(株)は、2022年8月よりグループ入りしています。

(製造業向けセグメント)

	前第3四半期	当第3四半期	増減額	増減率 (%)
売上高	6,657	6,102	△555	△8.3
営業利益	549	293	△256	△46.6
受注高	6,747	5,345	△1,401	△20.8
受注残高	4,305	4,268	△37	△0.9

化粧品乳化装置・攪拌機の製造は、もともと顧客の設備投資の動向に左右されますが、当第3四半期は、大口案件が少なかったことに加え、資機材長納期化の影響や中国現地法人の美之賀機械（無錫）有限公司においてゼロコロナ政策の影響を受け減収となりました。また、ドライブシャフトの製造が海外生産停滞の影響を受けた他、各種産業機械部品の製造において半導体関連の売上が減少に転じたため、製造業向けセグメントは減収となりました。営業利益は、個別採算の改善に努め一定の黒字を維持しました。

受注高は、化粧品乳化装置・攪拌機、各種タンク、ショットブラストマシン等において、大口受注が少なかったことや、顧客の設備投資案件が減少したことから、前年同期比減少しました。

(建設業向けセグメント)

	前第3四半期	当第3四半期	増減額	増減率 (%)
売上高	4,791	4,382	△408	△8.5
営業利益	58	△398	△457	—
受注高	4,789	6,837	2,047	42.8
受注残高	4,681	7,658	2,977	63.6

2021年秋以降、当社製品に使用する電子部品・部材の調達の高納期化や価格の上昇が継続しています。特に、高層ビル用の配電盤を主体とする電気機械器具製造及び電気工事において、インバーター等の電子部品の不足から出荷遅延が発生している他、機械式駐車場装置のリニューアル・修繕において工事の遅延が発生しています。建設用エレベーターの製造・レンタルや空調衛生給排水設備装置は堅調を維持したものの、カバーしきれず減収となりました。この結果、特に配電盤製造工場の稼働率が低下し営業損失が拡大しました。但し、建設業特有の第4四半期に売上計上が集中する傾向が顕著にみられるため、第3四半期の業績が年間の業績に連動するものではないことに留意を要します。

一方、受注については、電気機械器具製造及び電気工事、空調衛生給排水設備の施工等順調に積み上がり、受注残高は大きく伸長しました。

(レジャーセグメント)

	前第3四半期	当第3四半期	増減額	増減率 (%)
売上高	1,742	2,820	1,077	61.8
営業利益	151	640	489	322.1
受注高	1,654	878	△776	△46.9
受注残高	1,348	767	△580	△43.1

前第3四半期は、2021年4月から9月にかけてコロナ禍における緊急事態宣言やまん延防止等重点措置による遊園地営業の休止・自粛要請や、水際対策によるインバウンド客の消失などの影響を大きく受けました。当第3四半期は、オミクロン株第7波・第8波により感染者数が高止まりする一方で、行動制限の緩和が段階的に行われ、国内利用客が戻り遊園地運営の売上が増加しました。また、遊園地からの部品・修理ニーズを捕捉し、大幅増収・増益となりました。

受注については、前第3四半期のような大口受注はありませんでしたが、遊戯機械販売・メンテの受注を着実に積み上げました。

(2) 財政状態に関する説明

(単位：百万円)

	前会計年度	当第3四半期	増減額	主な増減理由
流動資産	11,508	12,823	1,314	受取手形及び売掛金 $\Delta 1,321$ 仕掛品 1,172 その他流動資産 604 原材料及び貯蔵品 314 電子記録債権 291
固定資産	13,919	14,829	909	有形固定資産 502 のれん 300
流動負債	8,573	12,028	3,455	短期借入金 3,400
固定負債	8,983	8,069	$\Delta 913$	長期借入金 $\Delta 1,034$
純資産	7,871	7,554	$\Delta 316$	利益剰余金 $\Delta 416$

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期業績予想につきましては、現時点においては2022年5月13日に公表した数値を見直ししておりません。

(今後の当社グループの業績におけるリスク要因)

- ・コロナ禍や地政学リスク等による部品・部材調達の遅れや原材料価格の上昇が製造業向け・建設業向けセグメントに影響を与えるリスク
- ・コロナ禍がレジャーセグメントの事業環境悪化を招くリスク
- ・台風や地震等自然災害が当社や協力会社などのサプライチェーン及び顧客に与えるリスク
- ・グローバル経済の減速が顧客の売上や設備投資に影響するリスク

今後、こうした要因を含め、業績予想の修正開示が必要となった場合には、速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,436	3,589
受取手形及び売掛金	4,521	3,200
契約資産	534	598
電子記録債権	573	865
商品及び製品	189	225
仕掛品	938	2,110
原材料及び貯蔵品	827	1,141
その他	497	1,102
貸倒引当金	△10	△10
流動資産合計	11,508	12,823
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,800	3,293
機械及び装置（純額）	1,677	1,588
土地	2,873	2,842
その他（純額）	443	572
有形固定資産合計	7,793	8,296
無形固定資産		
ソフトウェア	353	369
のれん	711	1,011
その他	17	17
無形固定資産合計	1,081	1,399
投資その他の資産		
投資有価証券	4,384	4,429
長期貸付金	2	2
繰延税金資産	166	223
退職給付に係る資産	293	277
その他	206	209
貸倒引当金	△8	△8
投資その他の資産合計	5,044	5,133
固定資産合計	13,919	14,829
資産合計	25,428	27,653

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,003	3,603
短期借入金	950	4,350
1年内返済予定の長期借入金	2,007	1,767
未払法人税等	289	15
契約負債	481	940
賞与引当金	364	153
保証工事引当金	88	85
リース債務	302	220
その他	1,087	893
流動負債合計	8,573	12,028
固定負債		
長期借入金	4,878	3,843
リース債務	784	632
繰延税金負債	1,232	1,302
退職給付に係る負債	1,773	1,827
資産除去債務	309	311
その他	5	153
固定負債合計	8,983	8,069
負債合計	17,557	20,098
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,581	2,602
資本剰余金	—	21
利益剰余金	3,246	2,829
自己株式	△9	△9
株主資本合計	5,818	5,444
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,925	1,940
繰延ヘッジ損益	12	21
為替換算調整勘定	39	79
退職給付に係る調整累計額	△11	△8
その他の包括利益累計額合計	1,965	2,033
新株予約権	86	77
純資産合計	7,871	7,554
負債純資産合計	25,428	27,653

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	13,191	13,305
売上原価	10,052	10,228
売上総利益	3,138	3,076
販売費及び一般管理費	3,336	3,613
営業損失(△)	△197	△536
営業外収益		
受取利息	3	1
受取配当金	130	358
その他	40	57
営業外収益合計	174	417
営業外費用		
支払利息	102	85
その他	39	35
営業外費用合計	141	120
経常損失(△)	△165	△240
特別利益		
投資有価証券売却益	40	—
固定資産売却益	—	6
その他	4	—
特別利益合計	45	6
特別損失		
投資有価証券評価損	9	—
特別損失合計	9	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△130	△233
法人税、住民税及び事業税	329	53
法人税等調整額	△552	△27
法人税等合計	△222	26
四半期純利益又は四半期純損失(△)	92	△259
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	92	△259

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	92	△259
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	194	15
繰延ヘッジ損益	1	8
為替換算調整勘定	28	40
退職給付に係る調整額	8	3
その他の包括利益合計	233	67
四半期包括利益	325	△191
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	325	△191
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(連結納税制度からグループ通算制度への移行について)

当社及び国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(新型コロナウイルス感染症の影響について)

新型コロナウイルス感染拡大は、依然として収束が見えず不透明な状況は続いておりますが、2021年後半の市場環境が継続するという仮定のもと、会計上の見積りを実施しております。

また、新型コロナウイルス感染症拡大による影響については不確定要素が多く、上記の仮定に変化が生じた場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	製造業向け	建設業向け	レジャー			
売上高						
一時点で移転される財 又はサービス	6,253	2,938	1,678	10,869	—	10,869
一定の期間にわたり移転 される財又はサービス	404	1,853	64	2,321	—	2,321
顧客との契約から生じる 収益	6,657	4,791	1,742	13,191	—	13,191
外部顧客への売上高	6,657	4,791	1,742	13,191	—	13,191
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	6,657	4,791	1,742	13,191	—	13,191
セグメント利益又は 損失(△)	549	58	151	760	△958	△197

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失の調整額△958百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△969百万円、貸倒引当金の調整額0百万円及びセグメント間取引消去11百万円であります。

全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	製造業向け	建設業向け	レジャー			
売上高						
一時点で移転される財 又はサービス	5,906	2,508	1,972	10,387	—	10,387
一定の期間にわたり移転 される財又はサービス	195	1,873	847	2,917	—	2,917
顧客との契約から生じる 収益	6,102	4,382	2,820	13,305	—	13,305
外部顧客への売上高	6,102	4,382	2,820	13,305	—	13,305
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	1	—	1	△1	—
計	6,102	4,384	2,820	13,306	△1	13,305
セグメント利益又は 損失(△)	293	△398	640	536	△1,072	△536

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失の調整額△1,072百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,086百万円、貸倒引当金の調整額0百万円及びセグメント間取引消去12百万円であります。

全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3 第1四半期連結会計期間より、従来「産業向け」としていた報告セグメントの名称を「製造業向け」に変更しております。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づいて作成しております。